

QueSerá,Será

VOL.32
2003
SPRING



クリシュナ神、誕生の踊り 写真撮影：高子 忠雄

先日、ある禅僧の話を聞く機会がありました。その高僧によれば、曹洞宗では身体の修行により悟りの境地に向かい、臨済宗では心の鍛錬から悟りに向かうのだと言うことでした。曹洞宗の本山である永平寺を訪れるとき、若い修行僧がきびしひとした立ち居振る舞いで仕事をしています。永平寺に入山すると、起床から就寝に至るまで厳しい戒律のもとで行動が制限されます。洗面の仕方から箸の上げ下ろしまで一挙一動が細かい規則に縛られています。日常のすべての行動が修行なのです。もちろん、只管打座、ひたすらに座禅をしているあいだに肝が座り、腹ができる、やがては悟りの境地に達するというのです。一方、臨済

先日、ある禅僧の話を聞く機会がありました。その高僧によれば、曹洞宗では身体の修行により悟りの境地に向かい、臨済宗では心の鍛錬から悟りに向かうのだと言うことでした。曹洞宗の本山である永平寺を訪れるとき、若い修行僧がきびしひとした立ち居振る舞いで仕事をしています。永平寺に入山すると、起床から就寝に至るまで厳しい戒律のもとで行動が制限されます。洗面の仕方から箸の上げ下ろしまで一挙一動が細かい規則に縛られています。日常のすべての行動が修行なのです。もちろん、只管打座、ひたすらに座禅をしているあいだに肝が座り、腹ができる、やがては悟りの境地に達するというのです。一方、臨済

禅では心から修行にはいると言われている。公案といわれる難問が師匠から問題提起され、それを何日も何日も考え続け工夫して解決します。公案の中でもつとも人口に膾炙されているのが「隻手の声」です。すなわち、両手を打てば音が鳴ります。片手を打つても音は出ない。その片手の声を聞いて来なさいというのが問題です。この種の設問の解答は常識的な思考形態で得られるものではなく、全く異なった次元にいることにより達成できるとされています。曹洞禅では身体から、臨済禅では心から悟りに向かうのですが、結局、どちらから入っても到達点は同じであるということです。すな

身体と心

医療法人 和楽会 理事長 貝谷久宣



身
心
相
関
と
い
う
こ
と
で
す。

身体と心

パニック障害は心身相関の不安の病です。症状は身体面にも精神面にも生じます。しかし、その根幹は不安であり、身体症状は不安による自律神経の症状です。自律神経はからだの隅々まで張り巡っています。だから、身体のいたるところでも症状の出る可能性があります。米国のパニック発作の診断基準では10の身体症状と3つの精神症状が記されています。この3つの精神症状の中に現実感消失と離人症状があります。このパニック発作に見られる精神症状は、不安感が余りにも強く優勢であるので、不即不離の心身のバランスが乱れて心身がばらばらになつていて状態です。現実感消失では、"甘い辛いは分かれるがうまいと感じない"、"晴れ渡った空と緑さわやかな山を見てもすがすがしいと感じられない"などと訴えられます。個別の身体的感覚ははつきりしているのであるが、全体的精神的感覚—感情—が失われた状況である。離人症では、"自分が自分でない感じ"として現実感がない"もう一人の自分が自分を観察して

いる”などと訴えられ、身は的運動感覚の自己所属感がなくなつた状況がみられます。離人症を持つ若いパニック障害者の女性患者さんにリストカットが見られることが時にあります。現実感がなくリストカットの痛みで何とか現実感を得ようとしたのだと言うのです。この場合も、心と身体のバランスが不均衡となり、これを穴埋めしようとする行動で、この理解することが可能かもしれません。この離人感は人が死んでいくときに経験される幽体離脱とほぼ同じであります。自分が遺体を囲んで子供たちが悲しみに暮れているのを天井から見ていたと、死から回生した人が陳述することがあります。この場合も、身体機能よりも精神機能のほうが優勢で、心身相関のバランスが崩れてこののような状態が生じるのであります。

持つのです。このような慢性的な不安を持つ患者さんを診ていると、別な意味で心身両関の均衡状態が崩れていたのだなどと考えさせられるケースがあります。Aさんは、茶碗焼きを始めとした豊富な趣味を持ち、センスのある着こなしをもち、セニョール帽や洋服など、自分が身についた50台半ばの女性で、2年前から通院されていました。パニック発作が初発してから30年近く経っていますので、最近は激しいパニック発作は全くなく、上記の理由のない浮動性不安と頭が重いとか胸がなんとなく苦しいといった非発作性不定愁訴だけがありました。副作用が少しづつ服用できるようになって服用できなかつたSSRIが少しづつ服用できるようにになって、症状はかなり改善してきていました。ところが、ある日ご主人が患者さんの代わりに診察室に来られました。理由を聞くと乳がんが見つかって入院されたということでした。パニック障害患者さんの中には、たいしたことのない身体症状を大げさに考え、重い病気をあれこれと心配するというものが常であり、Aさんも乳がんを気にして非常に落ち込んでいるのではないか

筆者の想像に反して、Aさんはけろつとして入院生活をとられているそうです。今まででわけのわからない病氣で悩めました。が、今度は身体異常がはっきり出ているので、不安はそんなに強くないということでした。癌—死に至る病を得てもAさんは泰然自若として闘病生活を送らとうことでしょうか。Aさんは癌という重大な身体疾患を口に前にして、驚き、怖れ、暗病といった精神的な弱さを掃して、自己本然の心に目覚められたのだと私は思いました。酷な言いかたかもしれないが、身体的に重篤な病を得て、ある意味で心身のバランスが得られたのかもしれません。

パニック障害にかかる人は、「死」に対する敏感です。以前にも書きましたが、パニック障害は死を過度に恐れるのです。軽い身体的な不調を感じても、救急車のサイレンの音を聞いても、サスペンスドラマをみていても、すぐ死を連想してしまいます。しかし、死は誰にも確実にやつ

くる、避けては絶対に通れない人生の道であります。禅は本来「生死の教育」といわれ、「死」に直面することはどの人間にとっても大きな問題です。幼時より地獄におびえ、仏道に入つた禅僧も少なくありません。禅者の多くは、死を恐れおののく心を処するのではなく、Aさんのように真正面から一度「死を見つめる」ことから始まるのだと説いています。死について深く深く考えてみる。その中から「生の充実」の必要性が生まれ、より良く生きる人生が始まるかもしれません。私のような平凡な暮らしをしていると、「お陰様」を忘れ、すべてが当たり前に思えてきます。生かされていることを忘れないで、どのようにパニック障害患者さんとともにこれからも生きていきたいのです。

横浜クリニック

横浜クリニック院長
東洋英和女学院大学人間科学部教授



横浜クリニツク院長

社会不安障害などの不安障害など、うつ病、双極性障害などの気分障害を主な研究対象疾患として、臨床研究に取り組んできました。難治例、慢性例に対しても治療的工夫を行いました。何篇かの論文と何冊かの著書を著わしてきました。写真はありますのはその一部です。

現在は、東洋英和女学院大学
人間科学部で横浜にあります
大学では実存精神医学を、東京
六本木にあります大学院では
臨床死生学を教えています。

治療に対する考え方、心の

此の度は、貝谷久宣先生が
主催する不安・抑うつ臨床研
究会の3つ目のクリニックが

横浜に今年4月1日よりオーナーとして運営することになりました。私は、その横浜クリニックの院長に就くことになりました。山田和夫です。これからどうぞ宜しくお願い申し上げます。

私は、始めから精神科医にならうと思いまして、昭和50年に横浜市立大学医学部に入学しました。昭和56年に卒業以来、今年で22年になりますが、ずっと精神科医の道を歩んで

例えば、パニック障害ではまずパニック発作が起こりますが、これはPTSDに近い体験と把えていています。パニック障害には、まずSSRIなどの抗うつ薬で治療を始めます。

病の成り立ちが、身体的、精神的、社会的全ての側面が関与していることから、治療もその三方向性を併用するようになります。心の病を経験した人は、実存的危機に陥る人が少なからずいますが現在は、大学との関連からその実存的治療に最も力を入れています。

す。これが身体的治療です。次に認知行動療法の併用が必要ですが、これが精神的治療です。そして、患者の家族学校、職場でのパニック障害に対する理解が大切で、これが社会的治療です。しかしそれでも自信を無くし、閉じこもりがちになり、生きる目的を見失いがちの患者さんがいます。この人達には、社会に出る、生きる勇気を出してもらうことが大切になってしまいます。そのためには、実存分析、実存的治療アプローチが重要になります。具体的には、映画や文学がそのヒントになります。

ていました。「美智子夫婦の村の生活でもう一人ポイントとなる人物がいる。夫孝夫の学生時代の恩師である幸田である。彼は自分が胃ガンの末期状態であることを知りつづけ、潔く死を受け入れるべく医療を拒否し、書に精魂を傾け、端正な日々を送っている。幸田の生き様はまさにパニック障害者の病的心性の対極状態である。不治の病を慌てず騒がず天命として受け入れ、一日一日を自分流に精一杯生きる姿はパニック障害者の鑑である。」「美智子の発病は死との直面と流産という不幸が重なって生じたと考えられる

の自信を取り戻す。それと相前後して、43歳になつた美智子は再度の妊娠を孝夫に報告し、映画は「THE END」となる。私は、横浜という、美しい農村とは対極にある都會のビルのクリニックで、この実存的癒しのある医療を実践していきたいと思つています。東洋英和女学院大学での仕事と横浜クリニックでの臨床は、私にとって同じ研究と実践の場として、大きく結びついています。

〈著書の一部〉



ストレス講座 一その11-

スランプからの脱出法

野村 忍 早稲田大学人間科学部教授

プロレスの話ですが、何年か前に長州力というトップレスラーが調子が悪くなつて、若手にころころと負け出すようになり自信を喪失したことがあります。当時の社長であつたアントニオ猪木に引退を申し出ましたが、その時、猪木は「人生、山あり、谷あり」と言つたそうです。長州はその言葉を聞いて一念発起し猛烈な練習をして再び活躍するようになりました。長い人生にいたるといふ循環を繰り返します。むしろ、ぐつぐつ暗くなつて、睡眠不足になり、ますますよい知恵を思つて、頭がすつきりしたり眠つて、頭がすつきりしたところで姿勢を正して考へると名案を思いつくというわ

だれでも気分よく快調に仕事もはかどりますが、いつたん調子をくずした時にこそ人間の真価が問われるものです。麻雀というゲームがありますが、将棋や囲碁などと違うのは運が大きく作用するというところです。快調な時にはどんどんいい牌が集まつてきます。ほいほいと上がれてしまします。ところが、いつたん不調になるとどんなにいい手がきても、相手に先に上がられてしまつたり、役満を聴牌つてしまつたり、役満を聴牌つてしまつたり、相手に先に上がられてしまつたり、チー、ポンすると相手にいい牌を流したりと散々な目にあつてしまいま

す。こういう時には、場所を変えをしたり、ちょっと休憩して氣分をリフレッシュすると意外と早くいやな流れを変えることができます。

スランプの時に、いかに早く脱出するかのスキルを身につけることは、ほかの社会的な悪循環を断つ方法としては、まず最初に父親であり野球の師でもある原貢氏に相談に行きました。原貢氏は、「夜、枕の上で考え方を、朝、背筋をのばして考えろ。」と言つたそうです。これは、実にスランプを脱出するための名言です。不調に陥った時には、寝る時に「あーでもない、こーでもない」とあれこれ思い悩み、たいていは悲観的なことを次々と考へ、だんだん暗くなつて、睡眠不足になつて、よい考へが浮んできます。このトップレス法（思考中止法）は、もともと強迫神経症の治療として考案されたものです。強迫とは、自分でも不合理だという考へが

スキルを身につけることと同様にあるいはそれ以上に重要です。スランプは、突然にやつてきます。それに気がついてあわてふためくとますます深みにはまり込みます。溺れるものはワラをもつかむと言いますが、じたばたするとよけいに溺れます。むしろ、いつたんもぐつてそれから顔を出すと案外簡単に脱出できるものです。それでは、どうやつたらスランプから脱出できるかを考えてみましょう。

巨人の原監督が就任する時に、まず最初に父親であり野球の師でもある原貢氏に相談に行きました。原貢氏は、

「ストップ カード」がありました。名刺やテレカあるいはパネットカードにマジックで大きく「STOP！」と書いてポケットに入れておきます。そして、何か悩み事があったり、暗くなつたり、考へが堂々めぐりを始めたら、「ストップ カード」を取り出して3秒間じつと見つめて下さい。人前でなければ、「ストップ！」と声に出して下さい。そうすると、うそのように新鮮な気分になつて、よい考へが浮んできます。このトップレス法

それを自分でコントロールできぬという症状です。そんな時に、「ストップ」と叫んでいた表情が印象的でした。

コーチ時代もプレッシャーを感じながらやつていたようになります。そこでスランプに見つけられました。ところが、昨年の開幕で阪神に連敗した時に、むしろ晴れやかな表情でインタビューに応じていましたので、私は昨年の巨人に優勝の○印をつけたものでした。

けです。そういうえば、現役の終わりころの原選手は控えが

多くなりベンチで暗い思いつてきます。それに気がついてあわてふためくとますます深みにはまり込みます。溺れるものはワラをもつかむと言いますが、じたばたするとよけいに溺れます。むしろ、いつたんもぐつてそれから顔を出すと案外簡単に脱出できるものです。それでは、どうやつたらスランプから脱出できるかを考えてみましょう。

巨人の原監督が就任する時に、まず最初に父親であり野球の師でもある原貢氏に相談に行きました。原貢氏は、

「ストップ カード」がありました。名刺やテレカあるいはパネットカードにマジックで大きく「STOP！」と書いてポケットに入れておきます。そして、何か悩み事があったり、暗くなつたり、考へが堂々めぐりを始めたら、「ストップ カード」を取り出して3秒間じつと見つめて下さい。人前でなければ、「ストップ！」と声に出して下さい。そうすると、うそのように新鮮な気分になつて、よい考へが浮んできます。このトップレス法



〈野村忍略歴〉

一九五一年京都生まれ。

医学部心療内科卒業。東京大学医学部心療内科助教授を経て、現在は早稲田大学人間科学部教授。専門は、心身医学、行動医学、臨床心理学。編著書は、「ストレス－心と体の処方箋」「ストレスと心臓病」「心療内科入門」「不安とストレス」ほか。

●シリーズ 家族28 ●

不登校とひきこもり

— 父親が主役に —

岩館憲幸

登校の親御さん達と語り合う機会がありました。平日ということもあってか出席された6人中、父親はお一人だけでした。

私はこのシリーズで、度々父親としての、あるいは夫としての在り方について触れてきたつもりです。父親は子育てに、夫は家事にもっと積極的に関わる必要がある、と強調してまいりました。その日の集談会でも不登校問題の解決は父親が主役にならなければと話しました。全国で50万とも100万ともいわれ社会問題化しているひきこもりになってしまわないためにも、不登校の初期にまず父親が毅然とした態度で登校させることができ大事と説きました。精神科医齊藤環氏は著書「社会的ひきこもり」(PHP新書)で、ひきこもりのきっかけとして不登校の長期化を第一に挙げております。齊藤氏は最近のNHKの教育特集番組「ひきこもり、扉のむこうからのSOS」(平成15年2月22日)でも、豊富な臨床経験から分りやすいコメントをされておりました。

原因究明よりも問題行動の改善を優先する認知行動療法的立場から、父親に不退転の

私はこのシリーズで、度々父親としての、あるいは夫としての在り方について触れてきたつもりです。父親は子育てに、夫は家事にもっと積極的に関わる必要がある、と強調してまいりました。その日の集談会でも不登校問題の解決は父親が主役にならなければ

ばと話しました。全国で50万とも100万ともいわれ社会問題化しているひきこもりになつてしまわないためにも、不登校の初期にまず父親が毅然とした態度で登校させることができ大事と説きました。精神科医齊藤環氏は著書「社会的ひきこもり」(PHP新書)で、ひきこもりのきっかけとして不登校の長期化を第一に挙げております。齊藤氏は最近のNHKの教育特集番組「ひきこもり、扉のむこうからのSOS」(平成15年2月22日)でも、豊

富な臨床経験から分りやすいコメントをされておりました。

私はこのシリーズで、度々父親としての、あるいは夫としての在り方について触れてきたつもりです。父親は子育てに、夫は家事にもっと積極的に関わる必要がある、と強調してまいりました。その日の集談会でも不登校問題の解決は父親が主役にならなければ

ばと話しました。全国で50万とも100万ともいわれ社会問題化しているひきこもりになつてしまわないためにも、不登校の初期にまず父親が毅然とした態度で登校させることができ大事と説きました。精神科医齊藤環氏は著書「社会的ひきこもり」(PHP新書)で、ひきこもりのきっかけとして不登校の長期化を第一に挙げております。齊藤氏は最近のNHKの教育特集番組「ひきこもり、扉のむこうからのSOS」(平成15年2月22日)でも、豊

富な臨床経験から分りやすいコメントをされておりました。

私はこのシリーズで、度々父親としての、あるいは夫としての在り方について触れてきたつもりです。父親は子育てに、夫は家事にもっと積極的に関わる必要がある、と強調してまいりました。その日の集談会でも不登校問題の解決は父親が主役にならなければ

ばと話しました。全国で50万とも100万ともいわれ社会問題化しているひきこもりになつてしまわないためにも、不登校の初期にまず父親が毅然とした態度で登校させることができ大事と説きました。精神科医齊藤環氏は著書「社会的ひきこもり」(PHP新書)で、ひきこもりのきっかけとして不登校の長期化を第一に挙げております。齊藤氏は最近のNHKの教育特集番組「ひきこもり、扉のむこうからのSOS」(平成15年2月22日)でも、豊

富な臨床経験から分りやすいコメントをされておりました。

私はこのシリーズで、度々父親としての、あるいは夫としての在り方について触れてきたつもりです。父親は子育てに、夫は家事にもっと積極的に関わる必要がある、と強調してまいりました。その日の集談会でも不登校問題の解決は父親が主役にならなければ

ばと話しました。全国で50万とも100万ともいわれ社会問題化しているひきこもりになつてしまわないためにも、不登校の初期にまず父親が毅然とした態度で登校させることができ大事と説きました。精神科医齊藤環氏は著書「社会的ひきこもり」(PHP新書)で、ひきこもりのきっかけとして不登校の長期化を第一に挙げております。齊藤氏は最近のNHKの教育特集番組「ひきこもり、扉のむこうからのSOS」(平成15年2月22日)でも、豊

富な臨床経験から分りやすいコメントをされておりました。

私はこのシリーズで、度々父親としての、あるいは夫としての在り方について触れてきたつもりです。父親は子育てに、夫は家事にもっと積極的に関わる必要がある、と強調してまいりました。その日の集談会でも不登校問題の解決は父親が主役にならなければ

ばと話しました。全国で50万とも100万ともいわれ社会問題化しているひきこもりになつてしまわないためにも、不登校の初期にまず父親が毅然とした態度で登校させることができ大事と説きました。精神科医齊藤環氏は著書「社会的ひきこもり」(PHP新書)で、ひきこもりのきっかけとして不登校の長期化を第一に挙げております。齊藤氏は最近のNHKの教育特集番組「ひきこもり、扉のむこうからのSOS」(平成15年2月22日)でも、豊



フクロウ博士の智恵袋

パニック障害とカフェイン

カフェインはパニック発作を引き起こす物質であることはあちらこちらで言ってきた。コーヒー5杯分のカフェインを摂ると半数以上のパニック障害患者は発作を起こすことがわかっているのジャ。カフェインは脳内のアデノシンという神經伝達物質の働きをストップさせる作用がある。アデノシンはパニック発作を引き起こすノルアドレナリンのブレーキ役であるので、カフェインはパニック発作を誘引するのジャ。コーヒーよりもカフェイン含有量の高い紅茶を飲んでも発作が起きないのはなぜかという声を時々聞く。それはジャ！

表を見てください。茶葉や豆の段階では、カフェイン含有率はコーヒーが1.3%と最も低い。しかし、カップ一杯分に使う量が多いので、結果的に1回に飲む量のカフェインはコーヒーが一番多くなるのジャ。

コーヒーの中でもエスプレッソやインスタントコーヒーは比較的カフェイン含有量は少ない。しかしジャ。油断してガブガブ飲みすぎると発作が起るので用心用心！

各種飲み物のカフェイン含有量

飲料	カフェイン含有量	カップ一杯分(150ml)を 抽出させる量	カップ1杯分の絶対量
せん茶	2.3%	3.5 g	40~60mg
ほうじ茶	1.9%	3.5 g	40mg
ウーロン茶	2.4%	3.5 g	50mg
麦茶		5.0 g	
紅茶	2.7%	3.8 g	60~80mg
コーヒー アラビカ種 ロブスタ種	1.3%	10.0 g	80~120mg 60~220mg

(Wegde2003 February P45より引用)

シリーズ 家族28

不登校とひきこもり

つた点では不登校も同様だと思います。だからといって不登校がそのままひきこもりになってしまうとか、不登校とひきこもりに直接因果関係があると考えているわけではありません。とはいっても、上記齊藤医師の調査でも明らかにされたように、ひきこもり事例の90%の人が不登校の経験をもつということ、彼等の、少なくとも70%近くの人々が不登校をひきこもりの初期症状として表しやすく、それがそのまま慢性化することで社会参加を困難にさせてしまっている、この実態から目を背けることがあつてはならないと思うのです。不登校が長期のひきこもりのきっかけになりやすいのは否定できない事実であると厳しく受け止め、親が、教師が、そして勿論一番悩んでいる子ども自身が、不登校からの早期脱出をまず自指すべきなのです。特に親は不登校の我が子と真っ正面に向き合い、教師との連携を密にしながら学校復帰をかなえさせてやれたとき、親としての子どもへの責任を果たせた気持ちになれるのではないかでしようか。子どもを自立させてやること、それが親

の子育て最大課題なのですかあります。その子育てが、母親任せになっています。不登校を始めとする子どもの問題で父親の姿が見えてこない場合が多い、よく指摘される話です。私も同じ印象を持ちました。それでこのシリーズでも取り上げました。(シリーズ16「父親が見えない」他) 今回は、不登校への父親の関わりかたについて、その大胆な提言で大きな反響を呼んでいる前記石川氏の著書から、その基本的考え方と具体的方略の要旨を紹介して終わりたいと思います。

氏は、「不登校などの子どもの問題の核心は子供の自立に対する大人の役割不全にあります」とし、子どもの問題は、主導的役割を果たすことであら、その基本的考え方と具体的方略の要旨を紹介して終わりたいと思います。

第三段階
母子分離のための役割行動
第二段階
職場の協力要請
第四段階
父の子どもへの積極的関わり(運動ゲーム 買い物等)
第五段階
父と子どもの登校開始
第六段階
再登校後の家族調整



一九三五年秋田生まれ。
早稲田大学文学部哲学科卒業。
心理学専修。
自衛隊中央病院精神科、航空自衛隊岐阜病院などを経て、現在は東海女子短期大学人間福祉学科教授。なごやメンタルクリニックカウンセリング担当。

以下は、氏が「父親による第二の出産」と名付ける不登校脱出のための父親の具体的行動方略の要約です。

第一段階
不登校解決への取り組み表明
第二段階
職場の協力要請

【キビタキ】

熱帯の鳥を思わせる鮮やかな色をしたこの鳥は、夏鳥として日本にやってきます。

初夏、森の中から「ピッピリリピッピリリ…」と美しい囁りが聞こえます。

飛んでいる虫を空中でうまくとらえて食べます。

撮影 (財)日本野鳥の会
岐阜県支部長 大塚之穂



INFORMATIONS

● 不安の医学 第9回市民講演会のお知らせ

● 「パニック障害の治療と看護」

日 時：平成15年4月12日(土)

1:00PM~3:40PM (開場12:30)

場 所：名古屋市中区役所ホール

入場無料：詳細は受付のパンフレットをご覧下さい。

● クリニック関係図書出版案内

● 「人はなぜ人を恐れるか」

編著者：坂野雄二／不安・抑うつ臨床研究会編
出版社：日本評論社

● 「パニック障害に負けない

～不安恐怖症の体験・克服記～」

編著者：貝谷久宣／不安・抑うつ臨床研究会
出版社：日本評論社

● 「強迫性障害～わかっちゃいるけど

やめられない症候群～」

編著者：久保木富房／不安・抑うつ臨床研究会
出版社：日本評論社

● 「うつ病／私の出会った患者さん」

編著者：樋口輝彦／不安・抑うつ臨床研究会
出版社：日本評論社

● 「不安とストレス」

編著者：野村忍／不安・抑うつ臨床研究会
出版社：日本評論社

● 「パニック障害」

編著者：貝谷久宣／不安・抑うつ臨床研究会
出版社：日本評論社

● 医療費の負担について

定期的に通院治療を行っている患者さんは、精神保険法第32条の「通院医療費公費負担制度」により、医療費を軽減することができます。御希望の方は、受付までお問い合わせ下さい。



● 「PTSD～人は傷つくとどうなるか～」

編著者：加藤進昌／樋口輝彦／不安・抑うつ臨床研究会
出版社：日本評論社

● 「対人恐怖～社会不安障害」

編 著：貝谷久宣
出版社：講談社健康
ライブラリーシリーズ

● 「摂食障害～食べられない、やめられない」

編著者：久保木富房／不安・抑うつ臨床研究会
出版社：日本評論社

● 「社会不安障害」

編著者：樋口輝彦／久保木富房／不安・抑うつ臨床研究会
出版社：日本評論社

— 貝谷先生の新刊 —

● 「パニック障害の理解と看護

～患者とその家族のために～」

著 者：貝谷久宣
出版日：平成14年12月
出版社：医薬ジャーナル社

QueSerá,Será
「ケセラセラ」

発行日 平成15年4月1日

【診療時間】

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
月	休診	診 療 (安田)		休 診		診 療 (安田)		休 診				
火	休診	診 療 (貝谷)		休 診		診 療 (貝谷)		休 診				
水	休診	診 療 (貝谷)		休 診		診 療 (貝谷)		休 診				
木		診 療 (土田)		診 療 (宇野) (第1・2 ・4・5のみ)								
金		休 診			診 療 (福原)							
					心理カウンセリング (岩館)							
土	診療 (岡崎・金井)			休		診						
	集団行動療法 (横山)											

※予約診療(日曜休診)



なごや
メンタルクリニック

発行者 貝谷久宣

発行所 医療法人 和楽会

なごやメンタルクリニック

〒453-0015 名古屋市中村区椿町1-16

井門名古屋ビル 6F

Tel 052-453-5251 Fax 052-453-6741

ホームページアドレス

<http://www.fuanclinic.com>E-Mail office@fuanclinic.com

印 刷 ヨツハシ株式会社

〒501-1136 岐阜市黒野南1-90

Tel 058-293-1010 Fax 058-293-1007

定 価 ¥500